

血液科

1. スタッフ

科 長 (教 授)	小澤 敬也
外来医長 (助 教)	上田 真寿
病棟医長 (病院助教)	佐藤 一也
医 員 (教 授)	坂田 洋一 (兼)
	(教 授) 古川 雄祐 (兼)
	(教 授) 室井 一男 (兼)
	(准 教 授) 永井 正
	(准 教 授) 三室 淳 (兼)
	(講 師) 竹田津文俊 (兼)
	(講 師) 森 政樹
	(講 師) 尾崎 勝俊
	(講 師) 鈴木 隆浩
	(講 師) 外島 正樹 (兼)
	(講 師) 窓岩 清治 (兼)
	(学内講師) 大森 司 (兼)
	(助 教) 大嶺 謙
	(助 教) 松山 智洋
病院助教	山本 千鶴 (兼、派遣)
	翁 家 国
	藤原慎一郎
	畑野かおる (派遣)
シニアレジデント	6 人
非常勤医員	5 人

2. 診療科の特徴

認定施設

- 日本血液学会認定研修施設
- 日本輸血・細胞治療学会認定教育施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設

認定医

日本血液学会専門医	小澤 敬也、他12人
日本血液学会指導医	小澤 敬也、他7人
日本内科学会認定医	小澤 敬也、他21人
日本内科学会専門医	森 政樹、他6人
日本内科学会指導医	室井 一男、他8人
日本輸血学会認定医	室井 一男、他1人
日本がん治療認定医	森 政樹、他1人
日本臨床腫瘍学会暫定指導医	森 政樹

- 造血器腫瘍を始めとするすべての血液疾患に対して、充実したスタッフが連携して診療を実践している。
- 急性白血病の寛解導入及び地固め療法、悪性リンパ

腫に対する化学療法、抗体療法、放射線療法などの集学的治療、抗胸腺細胞免疫グロブリンを用いた再生不良性貧血の免疫学的治療、多発性骨髄腫に対するベルケイド、サリドマイドを用いた新規治療等の他にミニ移植、臍帯血移植を含む同種移植、自家移植を提供し、良好な成績を得ている。

3. 診療実績

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	735人
再来患者数	17,310人
紹介率	55.5%

2) 入院患者数 (病名別)

病 名	患者数
急性骨髄性白血病	172名
急性リンパ性白血病	35名
骨髄異形成症候群	28名
非ホジキンリンパ腫	153名
ホジキンリンパ腫	11名
多発性骨髄腫	21名
再生不良性貧血	10名
特発性血小板減少性紫斑病	13名
後天性血友病	8名
移植ドナー (血縁+バンク)	11名
造血幹細胞移植患者	31名
合 計	485名

3) 手術症例病名別件数

病 名	人数
人工肛門造設	1名
胆嚢摘出	1名
脾臓摘出	2名
右結腸切除	1名
痔核手術	1名
合 計	6名

4) 主な検査・処置・治験件数

骨髄穿刺	約1000件
骨髄生検	約50件
表面抗原解析	約400件
遺伝子診断	約100件
白血病初回寛解導入療法	39件
リンパ腫初回療法	77件
ATG療法	2件
レナリドマイド治験	1件
NS-17 (5-aza) 治験	1件
SB-497115-GR治験	1件
造血幹細胞移植	31件
同種移植	24件
ミニ移植	3件

臍帯血移植	5件
自家移植	7件
ドナー骨髄採取	11件
ドナー末梢血幹細胞採取	3件

- ・特発性血小板減少性紫斑病の病態と治療
- ・多発性骨髄腫：自治医大における今後の展望（サリドマイド認可を受けて）
- ・ファンconi貧血の治療と移植
- ・皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫の病態と治療
- ・当科における急性白血病、リンパ腫の治療成績
- ・平成20年度病棟医長総括

5) クリニカルインディケーター

(1) 治療成績

初発急性骨髄性白血病完全寛解率 79.4%
 び慢性大細胞型B細胞性リンパ腫寛解率 87.0%

(2) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

<死亡退院症例病名別リスト>

急性白血病	16名
悪性リンパ腫	11名
骨髄増殖性疾患	3名
特発性血小板減少性紫斑病	1名
再生不良性貧血	1名
多発性骨髄腫	1名
後天性血友病	1名
合計	34名

<剖検数> 4名
 <剖検率> 11.8%

6) カンファランス症例

<内科モーニングカンファレンス>

- ・多発性骨髄腫
- ・急性リンパ性白血病
- ・難治性骨髄腫
- ・難治性T細胞性リンパ芽球性リンパ腫
- ・月経過多（特発性血小板減少性紫斑病）
- ・白血球増多（成人T細胞性白血病）
- ・口腔内出血（特発性血小板減少性紫斑病）
- ・感冒様症状（急性骨髄性白血病）
- ・頸部リンパ節種大（非ホジキンリンパ腫）
- ・関節内出血（血友病B）
- ・バーキットリンパ腫
- ・意識障害（多発性骨髄腫）
- ・労作時呼吸困難、貧血（自己免疫性溶血性貧血）
- ・不明熱、意識障害（血管内大細胞型悪性リンパ腫）

<血液科症例検討会>

- ・輸血後鉄過剰症診療ガイドライン
- ・臍帯血移植後の血球減少
- ・白血病の髄外浸潤
- ・難治性T細胞性急性リンパ性白血病／T細胞性リンパ芽球性リンパ腫の治療
- ・中枢神経リンパ腫、血管内大細胞型悪性リンパ腫
- ・透析患者の化学療法
- ・リンパ系腫瘍に合併する造血障害
- ・骨髄異形成症候群の治療update
- ・ろ胞性リンパ腫の治療戦略
- ・慢性骨髄性白血病の治療戦略

4. 事業計画・来年の目標

各種治験に積極的に参加して新規治療の標準化に努める。また、「特発性造血障害に関する調査研究」班（研究代表者：小澤敬也教授）の主導的役割を果たしてきたが、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血などの難治性疾患治療法の先駆的開発を今後も行っていく。鉄過剰症治療に関しても、引き続き研究を進めて行く。

急性白血病、悪性リンパ腫という症例数の多い疾患に対しては、新規分子標的薬の導入、造血幹細胞移植療法の適応拡大による治療成績向上を目指す。同時に移植後の難治性GVHD（移植片対宿主病）に対する治療、特に間葉系幹細胞を用いた治療についての臨床試験を推進する。